

地域提案型

平成20年度 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 国名	中華人民共和国
2. 事業名	都市型近代農業及び農業政策アクションプラン策定支援事業
3. 事業の背景と必要性	<p>大分市は、昭和56年に武漢市農業実習生を受入れて以来、これまで7回にわたり延べ50名の実習生の受入れを行なってきた。これまでの農業実習生は、現在、農業担当の武漢市副市長、武漢市農業局の局長など活躍しており、武漢市農業の発展に寄与している。</p> <p>しかし、市場経済が進む中国では平成15年に「三農問題」（農民の低収入、農村の未発展、農業の未産業化）が取り上げられ、都市と農村との格差是正が政策課題の柱となっており、広大な面積と多くの人口を抱える農村地帯では、中国の実情にマッチしたモデルケースは誕生していない。</p> <p>これまで友好都市交流を切り口としながらも、武漢地域での改革施行の成否が、開発途上にある中国全土の農村地域の発展に波及効果を及ぼしており、これまでの交流経験と行政実務を基盤に県、地域農業協同組合やNPO法人大分一村一品国際交流推進協会などの市民活動団体、生産農家と幅広く連携しながら、協働で体系的に協力する必要がある。</p>
4. 事業の目的	<ol style="list-style-type: none"> 平成23年までの武漢市の農業振興計画の各目標指標の達成支援と先導的農業協力組合の組織、先駆的資源節約型・循環型の農業経営農家育成、一村一品6次産業型農業のパイロット事業着手支援を行う。 武漢市でのパイロット事業を総括し、武漢地域の実情にマッチした「（仮称）武漢広域圏農業・農村発展並びに所得増収アクションプラン」による実施ロードマップを作成する。
5. 対象地域	武漢市
6. 受益者層	武漢市社会科学院新農村研究センター、武漢市農民
7. 活動及び期待される成果	<p>研修員受入及び業務従事者派遣事業を通して、以下の成果が期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 武漢広域圏の関係行政機関、シンクタンク、有識者による農業発展指針（案）の策定 武漢市農業合作団体の機能見直し提案書作成 大分市と武漢市の農業政策及び近代農業比較研究書作成 無公害野菜づくり技術と環境保護型施設栽培技術の習得及び先駆的なモデル圃場づくり 先駆的な企業型畜産業の育成と環境保全・資源循環型酪農業振興拠点の形成及び加工技術の向上
8. 実施期間	平成21年8月～平成24年3月
9. 事業の実施体制	<p>国内実施体制：大分市文化国際課国際化推進室が連絡調整窓口となり、商工農政部が主に研修を担当する。</p> <p>現地支援体制：武漢市農業局が連絡調整窓口となり、武漢市社会科学院新農村研究センターが主に派遣業務従事者受け入れ先となる。</p>
II. 応募団体の概要	
1. 団体名（提案自治体）	大分市（大分県大分市）
2. 対象国との関係、協力実績	<p>大分市と武漢市は昭和54年9月に友好都市を締結して以来、経済貿易、科学技術、文化スポーツ、医療、農業の分野において、実質的な交流と協力を行っており、その中でも農業分野における提携交流の効果は顕著である。80年代以降7回にわたり武漢市農業実習生の受入及び研修を行い、平成19年から平成20年には武漢市より派遣された郷鎮長訪問団（計68名）を受け入れ、研修を行った。</p>